

植物学者三好學 研究資料 I

安 藤 裕

目 次

まえがき

1. 天然記念物関連の資料
(附)都府県別巨樹名木一覧表
2. 三好家関連の資料
3. 師範学校および土岐小学校時代の資料

あとがき

文献・資料

三好學の天然記念物関係著書・論説・調査報告等目録

まえがき

本研究紀要の第10号(1992)に「日本の近代植物学を興した三好學小伝」⁽¹⁾を載せた。これは先年、三好の故郷である岐阜県岩村町の水野恭平教育長から依頼があった「三好學伝」編纂の準備の一環で、年譜型式の三好の生涯の概要である。

その冒頭に述べたが、三好の日本の近代植物学成立への、また、天然記念物保存法制定への貢献が如何に大きかったかの認識がなされぬまま、戦後の半世紀が過ぎようとしている。今迄に三好に就いての追憶と小伝が、三好の門下によって幾つか書かれているが、科学史の立場からのものは門弟でない上野益三博士によるもののみである。⁽²⁾^(3, 4)

筆者が初めて三好の小伝を書いたのは昭和57年(1982)のことで、三好の高弟柴田桂太博士門下の林孝三先生^(5, 6)(元東京教育大学教授、

元日本植物学会会長、三好の孫弟子に当る)のお勧めによるもので、筆者が三好の孫で、しかも大學で動物学を専攻しており、執筆者として最適であるからと言うことであった。筆者は将来、三好の本格的な伝記を書く積りで、学生時代から祖父の著書などの印刷物や資料の蒐集に努める一方、母や三好の叔父、伯・叔母などから、伝記の最も重要なポイントと思われる家庭での祖父母の様子を聞き、筆者自身の記憶、思い出などのメモを作ってきた。こうして、祖父に就いての調べが進むにつれ、研究者として、また、教育者としての祖父の終始変わらぬ真摯さと気魄には、圧倒される思いである。

三好は専攻の植物生理学、生態学の研究論文、植物学教育の為の教科書、啓蒙書、桜や花菖蒲に関する図譜や解説、それに天然記念物保存に就いての論文、論説、著書など膨大な頁数、多分2~3万頁に及ぶ印刷物を残している。しかし、遺憾なことに今日、それを知る人は殆どいない。

筆者が少年の頃、本郷西片町の祖父の家で「著書を積み重ねると身の丈より高くなる。」と祖父から聞かされていたが、その超人的な執筆活動には、只々驚くばかりである。

三好の著書に関しては、前稿⁽¹⁾に掲げた通りで、ほぼ判っているが、三好の論文、論説などに就いては、三好が主な発表の場とした「植物学雑誌」「東洋学芸雑誌」以外のものは、各種、各様の出版物に亘っており、現在なお、完全なリストアップは出来ていない。

本編では三好學研究資料の中から天然記念物関連のものを取上げたが、天然記念物の調査報告書(内務省・文部省)の内容に就いては一部を除き割愛した。この他に三好家のこと、三好の若い頃の資料も加えてある。

本編を書くに当って資料の提供、借用および種々ご教示やご意見を頂いた岩村町教育委員会の水野先生、樹神弘先生、その他の職員方、高知県立牧野植物園、東京教育大学名誉教授伊藤洋先生、元東京教育大学教授碓井益雄先生、高知大学学長中内光昭先生、徳島大学歯学部教授高木知道先生、上田女子短期大学田子檀先生、県立岐阜藍川高等学校田中正弘先生、東京蔵前の永久堂永見純氏、および叔母の野村敏江(三好學の五女)、いとこの三好進、石田真理、鈴木節子(いずれも學の孫)の皆さんに心から感謝申上げる。

1. 天然記念物関連の資料

三好は生涯に3冊の天然記念物に就いての著書を残している。次にそれらの内容に触れながら紹介したい。

(1) 最初の著書『天然記念物』(図1)大正4年(1915)、東京の富山房からの出版である。その序で三好は「……天然記念物の保存に関しては、去る明治40年*『東洋学芸雑誌』に『名木の伐滅并に其保存に就て』(図2)と言う一編の論文を掲げて卑見を發表したのが始めて、夫れ以来博文館出版の『太陽』、『植物学雑誌』其他種々の雑誌、新聞などに自説を述べ、又自著の中にも此考えを述べて置いた、……」と書いている。今日では小学生でも理解している天然記念物であるが、明治末葉に三好が天然記念物保存の緊急性を提唱し、その先頭

* 明治39年の誤り

に立って運動を進め、着々と成果が現れ始めた大正の初頭に、この成書が出されたことは、誠に時宜を得たものと言える。

本書には第1章「天然記念物の毀損」から第16章の「結語」まで、三好一流の流麗な、しかも、平明な文章でわが国と外国に於ける天然記念物保存に就いての実情を多方面から説明している。殊に第8章の「我邦に於ける天然記念物保存」には、明治44年3月11日、当時の貴族院から政府へ提出された「史蹟及天然記念物保存ニ関スル建議案」(三好が起草し、三宅秀医学博士が加筆したもの)と同年11月の「史蹟名勝天然記念物保存協会(会長徳川頼倫侯爵)」成立の経緯が紹介されている。この本には、当時としては珍しい著者自身の撮影による写真版が加えられ、巻末には上記の「名木の伐滅と保存」に就いての論説などの再録の他、明治39年から大正4年4月まで三好が發表した天然記念物関連の著書、論説その他の目録(同書付録75-78頁)が添えられている。

この目録は三好のこの時期の活動を知る重要な手懸かりで、論説24、講演要旨4、談話5、独文論文4、計44が収録されており、明治44年のみでもその数、14点に及んでいる。これを見ても、三好が専門分野の植物生理学・生態学の研究と門弟指導の外に、如何に精力的に天然記念物保存思想の、啓蒙と普及に努めたかが判かる。この目録は次に述べる『天然記念物解説』の「自著論説調査報告等」と共に末尾に再録する。

(2) 二番目の著書は『天然記念物解説』*(図1)で、大正15年(1926)にやはり同じ富山房から出版されている。

* この頃、三好は記念物を紀念物と書いている。

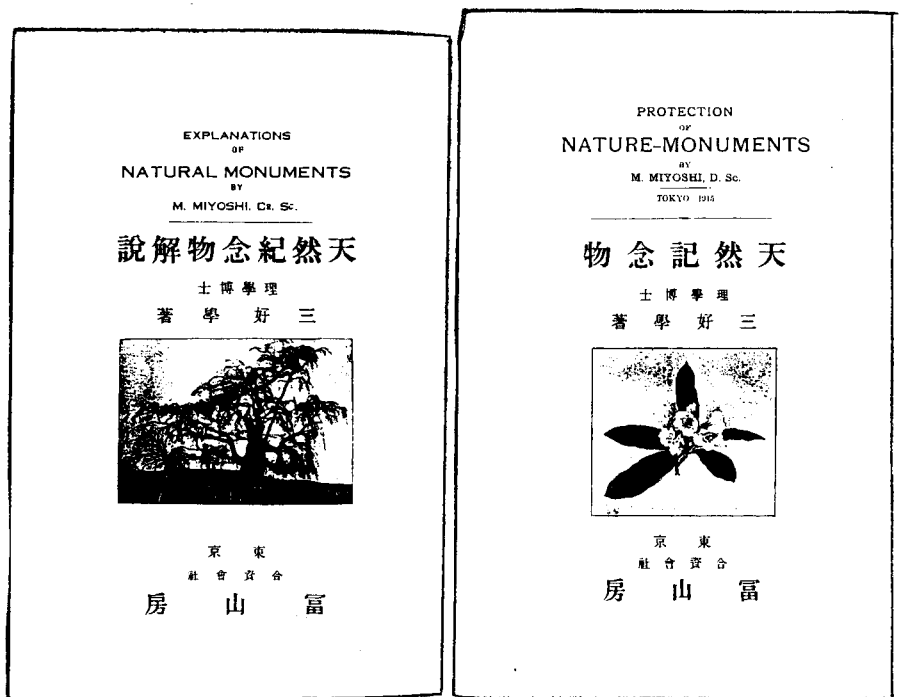


図1 右「天然記念物」 左「天然記念物解説」

「天然記念物」大正4年(1915)4月28日発行、富山房 菊版、クロス装、おもて表紙、書名などの金箔押し、序5、目次2、本文144、附録78頁、1円20銭、第2、5図版、第1、(36)、37、39図 三好撮影の写真

「天然記念物解説」大正15年(1926)5月23日発行、富山房 菊版、クロス装、天金、おもて表紙、書名など金箔押し、序3、目次11、図版目次4、本文1~430、附録431~484頁、正誤及補遺1枚、4円50銭、原色図版3葉、第1、9、12、16、32、38、46、47図版、第10、30、31、36、81、82、90、92、96図 三好撮影の写真

三好はこの本の序の最初に「大正8年史蹟名勝天然記念物保存法が発表されてから、代表的原始林、高山植物帯其他学問上稀なる動物、植物、地質、鉱物の類が天然記念物として指定された。是等の天然記念物は史蹟、名勝と共に国の宝で、法律によって保存されることは当然である。」と述べ、続いて前著『天然記念物』を出した大正4年は、保存法の発布前であったが、「…保存法発布後内務省に於て夫々専門的調査が施され、又指定が行はれ、今日では天然記念物保存の思想も次第に普及して来た。」と三好が明治39年以来続けて来た天然記念物保存運動の確実な手応えを述べて

いる。そして、時の皇太子殿下(昭和天皇)のお召しにより東京假御所で天然記念物保存に就いて御講話申上げたことは、無上の光栄であると序を結んでいる。

本書の内容は6編と附録より成り、第1編「総論」に続き、「外国に於ける天然記念物保存機関」「外国に於ける天然記念物保存の状態」「日本に於ける天然記念物の保存」「天然記念物の実例」「天然記念物に関する史蹟及び名勝」、それに附録として「史蹟名勝天然記念物指定一覧」「天然記念物に関する参考書目」と索引が附されている。この本は大正4年の前著に比べると、頁数も倍増し、三好の天

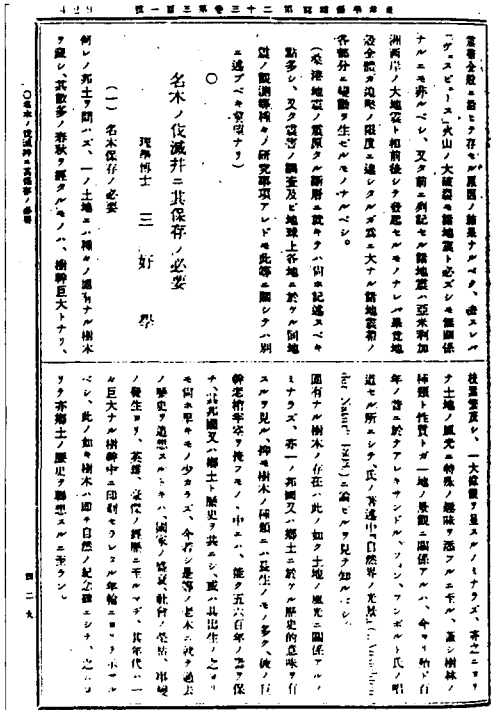


図2 三好の最初の論説：「名木の伐減并ニ其保存ハ必要」東洋学芸雑誌、第23巻、第301号、429頁、明治39年10月25日

然紀念物に就ての著作の中心となるもので、第5編の実例、「植物に関する天然紀念物」の記述は280頁(86-366頁)に達し、「社叢、著るしい並木、名木、巨樹及老木、原始林、高山植物帯、風穴地帯、高山植物群落、珍奇植物所存地、著しい植物の分布の境界、培養植物の稀なる原産地、野生植物に現はれた著しい畸態、珍奇水生植物、洞穴内に発生する固有植物、泥炭形成植物群落、海浜植物竝に海浜砂丘植物群落、温泉の水源竝に其附近の水中に固有なる下等植物群落、固有原野植物群落、蘭類、羊齒類、石松類、蔓植物、地衣類、蘚苔類等の盛に発生している土地又は是等の植物の多く著生している林樹、陸地に近い島で其植物区系の特異なるもの、現に稀になり、又は稀になるべき虞ある野生の有用植物」の



図3 「日本巨樹名木図説」昭和11年(1936)3月15日発行、刀江書院菊版布装、序1、2、目次3、凡例4、巨樹名木老樹定義測方及保護ニ就テ5、7、指定解除ノ巨樹名木(5件)8、9、巨樹名木老樹ニ関する文献10、11、巨樹名木、記載ニ就テ12、巨樹名木目次13~21、22~350、名木目次353~355、356~468、府県別巨樹名木表421~481、巨樹名木索引48頁~486頁(新装特製、昭和13年9月発行、4円80銭)

20の項目に就き、それぞれ指定の実例を挙げ、写真を添えて説明している。植物の次に「動物、地質鉱物に関する天然紀念物」の実例が記述され、最後の第6編に「天然紀念物に関する史蹟及び名勝」として、「薬園跡、桜、梅、花菖蒲の名所、浮島、松原」に関して述べ、三好が後年、主力を注いだ桜、花菖蒲の変異や品種に就いての広範な研究との関連が見られる。

本書は天然紀念物の解説書としては、半世紀以上経過した今日でも十分通用するもので、三好の平明流麗な文章は、ルビをふれば現代

の人々にも容易に読むことが出来よう。機会があれば、この本を今日の状況に合わせて増訂し、現代版を作ってみようかと思う。

(c) 第3番目の著書が『日本巨樹名木図説』(図3)で、昭和11年(三好の没した3年前)、東京の刃江書院からの出版である。大正8年の天然記念物保存法の制定で、内務省の史蹟名勝天然記念物調査委員に任命された三好は、大変な熱意で日本全国の植物関係の天然記念物の実地調査をし、それらの報告を次々と書いていく。それらの内で国指定の天然記念物となった巨樹、名木、老樹を一つひとつ写真入りで樹木の形状、来歴、伝承などを解説したのが本書である。

この序に三好は次のように記している。「我国ニ古来巨樹名木ノ多カリシハ舊時ニ刊行サレタル地誌殊ニ名所図会類ニ散見スルニヨリテ知ルベシ……大正8年史蹟名勝天然記念物保存法ノ発布ニヨリ我国各地ニ於ケル巨樹名木ハ調査ノ結果天然記念物トシテ続々指定セラレ、……現時マデ其数二百有余ニ及ベリ。……本書ニ載セタル巨樹165、名木57、合計222件ノ内210ハ予ノ実地調査シタルモノナリ。……」。指定木222件中210件が、三好が還暦を迎えた大正8年(1919)から、昭和14年(1939)の三好の他界までの20年間に調査、指定され



図4 三春の滝桜(紅しだれ桜)
(鈴木節子提供)

ているのである。^{*}名木は全て三好自身の調査で、巨樹、老樹には門弟の吉井義次、竹中要博士の調査が含まれている。また、三好以外としては波磨実太郎氏などの名前が見える。^{**}

次表1は本図説から三好による調査のものを拾って作った「都府県別巨樹名木一覧表」である。件名に続く数字は、それが掲載されている天然記念物調査報告の輯数を示している。カッコ内の「植雑」は植物学雑誌、「学記」は帝国学士院記事の略で、数字は巻と頁を示す。「ドイツ樹芸」はドイツ樹芸学会年報(Mitt. d. deutsch. dendrol. Ges.)のことで、カッコ内に氏名のあるのは門弟の調査によるものである。東京の「海軍大学校のセイ」の海軍大学校は現存しないが、そのままの表記で転載した。無印は巨樹、*印は名木、+印は枯死、枯損、戦災、盗伐による指定解除で、「天然記念物事典」の「天然記念物指定解除目録」(320-1頁)に據ったつたものである。図4、5は今日でも見事な花をつける三春滝桜(福島県)と根尾谷の淡墨の桜(岐阜



図5 根尾谷の淡墨桜(白彼岸桜)
(鈴木節子提供)

* 実際には昭和12年までの調査

** 三好の『実験植物学』(明治35年)の序に同氏の名前が見られる。

表1. 都府県別巨樹名木一覽表

青森県	法量ノ公孫樹……………3, 8	府馬ノ大樟……………6	神崎ノ大樟……………6
岩手県	*盛岡石割桜……………2	*二十世紀梨原樹……………16	
	*しだれかつら……………2		
	*しだれかつら……………2	埼玉県	石戸蒲桜……………3
	*しだれかつら……………2		牛島ノ藤……………4
	*敷栗自生地(学記3, 237)……………7		興野ノ大榎……………14
	勝源院ノ逆櫨……………4		本行寺ノ大やまもみぢ……………14
	*银杏岡ノ公孫樹(ドイツ樹芸, 1931)……………13		
	長泉寺ノ大公孫樹(〃 〃)……………13	東京都	栄松院ノ椎 ⁺ ……………6
	華藏寺ノ寶珠松……………16		善福寺ノ公孫樹(吉井義次)……………6
秋田県	神代藤……………13		御嶽ノ神代櫨……………6
			浅草公園ノ公孫樹……………6
山形県	伊佐澤ノ久保桜……………6		鬼子母神ノ公孫樹……………13
	東根ノ大櫨……………6		芝東照宮ノ公孫樹……………6
	熊野神社ノ大杉……………7		*光圓寺ノ公孫樹……………6, 13
			延命寺ノ櫨……………13
宮城県	苦竹ノ公孫樹……………3		安藤稻荷趾ノ公孫樹……………14
			海軍大学校正門前ノ椎……………15
福島県	荒井ノ大やまもみぢ……………14		大島の桜株……………16
	大善寺ノ藤……………14		*白山旗桜……………15
	三春ノ滝桜……………3, 7		東京美術学校門内ノ椎……………16
			上野恩賜公園二本杉原ノ椎……………16
茨城県	安良川ノ爺杉……………2	神奈川県	早川村ノびらんじゅ……………6
	*白旗山八幡宮ノ御葉附银杏……………9		
	大戸ノ桜……………14	静岡県	狩宿ノ下馬桜……………3
			龍華寺ノ蘇鐵……………4
群馬県	高崎公園ノ白木蓮……………14		能満寺ノ蘇鐵……………4
	原町ノ大櫨……………14		熊野ノ長藤……………14
	横室ノ大榎……………14		葛見神社ノ大樟……………14
	妙義神社ノ大杉……………14		阿豆佐和気神社ノ大樟……………14
	榛名神社ノ矢立杉……………14		木負ノ大蜜柑樹……………14
	前橋城趾ノ枝寄松……………15		美森ノ大やまつつじ……………15
			大瀬崎ノ柏楨樹林……………14
千葉県	清登ノ大杉……………4		三島神社ノ金木犀……………14
		山梨県	山高ノ神代桜……………3

橋立ノ大杉 ⁺	4	清田ノ大樟	13
山ノ神ノ藤	8	神明社ノ大椎	14
精進ノ大杉	8	名古屋城ノ榎	14
三島神社ノ大樺 ⁺	8	曬稿ノ松	14
河口ノ桧	8, 14	法眼ノ松	14
三恵村ノ大樺	9	牛久保ノ大椋	14
* 上澤寺ノ御葉附銀杏	9		
* 本国寺ノ御葉附銀杏	9	三重県	
* 萬休院ノ舞鶴松	14	* 白子不断桜	1
小形山ノ大樺	14	* 高倉神社ノ無澁榎	14
黒駒ノ梅	14	* 果號寺ノ無澁榎	14
		* 照源寺ノ金龍桜 (学記10, 424)	14
長野県		椋本ノ大椋	14
* 東内村枝垂榎	1		
素桜神社ノ神代桜	16	岐阜県	
飯盛松	16	根尾谷ノ淡墨ノ桜	3, 13
* 岩村田ノ相生松	16	揖斐二度桜 (植雑36, 8)	4, 13
		久津八幡神社ノ夫婦杉	9
新潟県		下呂ノ大杉	9
* 了玄庵ノ繫榎	3	禅昌寺ノ大杉	9
* 梅護寺ノ珠敷掛桜	7	千光寺ノ五本杉	9
* 極楽時ノ野中桜 (植雑36, 3)	7	* 中将姫誓願桜 (植雑42, 545)	9
將軍杉	7	* 下野ノ女夫松	13
* 小木ノ御所桜 (植雑42, 546)	9	神ノ御杖杉	14
中村ノ大杉	13		
鶺鴒川神社ノ大樺	13	和歌山県	
* 貝屋ノ御葉附銀杏	13	* 西濱ノ根上り松	7
富山県		滋賀県	
北般若ノ畏沙門杉	4	南花澤ノ花ノ木	1
上日寺ノ公孫樹	4	北花澤ノ花ノ木	1
		* 了徳寺ノ御葉附銀杏	8
石川県		* 醒井ノ不断桜 (植雑42, 551)	9
酒井ノ馬場榎	6		
* 兼六園菊桜 (植雑42, 549)	9	奈良県	
栢野ノ大杉	9	* 知足院奈良八重桜 (植雑36, 10) その2	4
		三本松	14
福井県		* 八ッ房杉	14
常神ノ蘇鐵	14		
小濱神社ノ九本だも	13	京都府	
萬徳寺ノやまもみち	13	神應寺ノ大樟 ⁺	4
専福寺ノ大樺	15	* 遊龍松	14
* 杉森神社ノ御葉附銀杏	15	新熊野神社ノ樟	14
		才ノ神ノ藤	14
愛知県			

大阪府	大玉杉 ……………13
妙国寺ノ蘇鐵 ……………4	*佐賀村ノ夫婦松 ……………13
磯良神社ノいぼぎくら (学記3, 236) ……8	余田ノ臥龍梅 ……………14
	春日ノ大やまもも ……………15
	河原ノ大榿 ……………15
兵庫県	徳島県
*高砂ノ松 ⁺ ……………4	*鳴門ノ根上り松 ……………6
*尾上ノ松 ⁺ ……………4	*坂野ノ根上り松 ⁺ ……………16
*曾根ノ松 ⁺ ……………4	*和田島ノ根上り松 ⁺ ……………6
妙見ノ大杉 ……………6	加茂ノ大樟 ……………6
*日置村ノ裸榿 (植雑39, 236) ……6	鍛冶屋原ノせんだい ⁺ ……………6
千手ノ松 ……………6	
高羽ノ樟 ……………6	香川県
八代ノ大榿 ……………6	賓生院ノ真柏 ……………3
六甲くろがねもち ……………14	誓願寺ノ蘇鐵 ……………4
芦屋ノ松 ……………14	白鳥ノウばめがし ……………8
	愛媛県
岡山県	下柏ノ大柏 (いぶき) ……………6
*臥龍松 ……………8	往至森寺ノ金木犀 ……………6
苔堤寺ノ公孫樹 ……………8	
	高知県
広島県	大谷ノ樟 ……………4
下瀬野村ノ大榿 ……………9	杉ノ大杉 ……………14
国泰寺ノ樟 ……………	平石ノ乳銀杏 ……………4
	*小田坂ノ相生松 ……………8
鳥取県	福岡県
*法城寺連理根上り松 ⁺ ……………6	太宰府神社ノ樟 (其一) ……………2
八郷ノ藤 ……………14	太宰府神社ノ樟 (其二) ……………2
倉吉ノ大榿 ……………14	太宰府神社ノひろはちしやのき ……7, 15
	湯蓋ノ森 (樟) ……………2
島根県	衣掛ノ森 (樟) ……………3
明神ノ松 ⁺ (竹中要) ……………7	本庄ノ樟 ……………2
玉若酢名神社ノ八百杉 (竹中要) ……8	英彦山ノ鬼杉 ……………4
松江城山ノくろがねもち ……………14	黒木ノ藤 ……………8
日御碕ノ大蘆鉄 ……………14	隠家ノ森 ……………15
*高津連理ノ松 ……………14	鎮西村ノ桂 ……………15
三隅太平桜 (学記10, 424) ……15	
	大分県
山口県	柞原八幡ノ樟 ……………2
川棚村樟ノ森 ……………3	松屋寺ノ蘇鐵 ……………4
共和村榿ノ森 ……………6	田深ノ根上り松 ⁺ ……………4
幸松 ⁺ ……………6	大杵社ノ大杉 ……………13
*大日比夏蜜柑原樹 ……………16	
*横野柿原樹 ……………13	
平川ノ大杉 ……………6	
法泉寺ノ楨柏 ……………8	

佐賀県	大野下ノ大蘇鐵	15
川古ノ樟	下ノ城ノ公孫樹	15
広澤寺ノ蘇鐵	麻生原ノ金木犀	15
有田ノ公孫樹		
嬉野ノ大茶樹	宮崎県	
普明寺ノ金木犀	*湯ノ宮ノ座輪梅	16
小城ノ樟	*高岡ノ月知梅	16
	去川ノ公孫樹	16
	*日向夏蜜柑原樹	16
熊本市		
楠原ノ樟 ⁺	鹿児島県	
藤崎台ノ樟樹群	蒲生ノ樟	1, 2
手野ノ杉		
笛鹿ノいちひがし		

県)である。

(4) 次に著書と稱するものではないが、重要と考えられるもの4点を挙げ、簡単な解説を加えた。

(a) 『史蹟名勝天然紀念物保存要目』 植物之部(図6)、大正10年 内務省刊、緒言(内務省) 2頁、本文35頁、原色図版3葉、写真図版8、写真附図9、参考書として自著『天然記念物』を紹介、菊判、紙表紙、大正8年の「史蹟名勝天然紀念物保存法」の公布に従って編まれたもので、その内容は「植物に関し保存すべしと認むべきもの左の如し」として、1.「社叢、著しき並木、名木、巨樹、老樹」に始まる17項目が掲げられ、それぞれ簡明な解説と実例の写真が添えられている。

(b) 『ハワイノ植物景觀及天然紀念物』(図7)、昭和2年 内務省刊、本文38頁(うち参考書目3頁)、紙表紙、四六倍版、三好が冒頭に「本篇ハ本年4月11日ヨリ16日マデ北米合衆国内務省主催ニヨリ ホノルルニ於テ開キタル汎太平洋教育及其他ノ会議ニ参列セル際 ハワイ諸島ノ植物景觀及天然紀念物ニ関シ觀察セルモノナリ」と述べており、その報告ではあるが、ハワイの位置、地勢、植物帯、植物区系の特徴、移入・帰化植物、天然

紀念物保存の7章から成り、むしろ論文と言ってよいもので、多くの参考書目録が附けられている。この報告の三好の肩書きは内務省嘱託である。

(c) 『太平洋地方ノ天然保護及蘭領東印度ノ天然紀念物保存』(図8)、昭和4年 文部省刊、本文48頁(うち附録4頁)、図14、紙

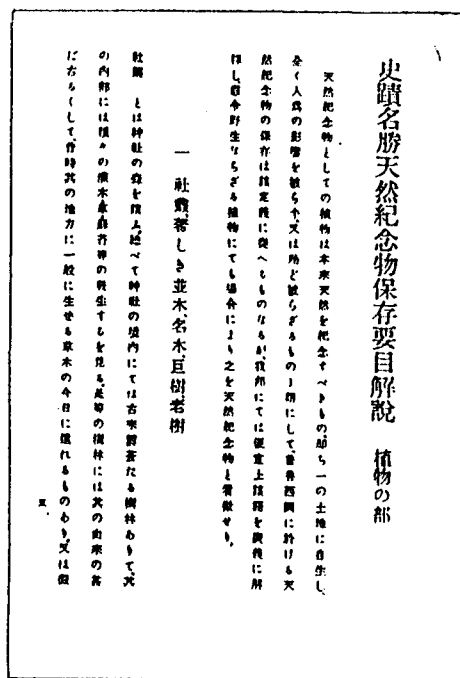


図6 「史蹟名勝天然紀念物保存要目解説」植物の部 (第1頁)

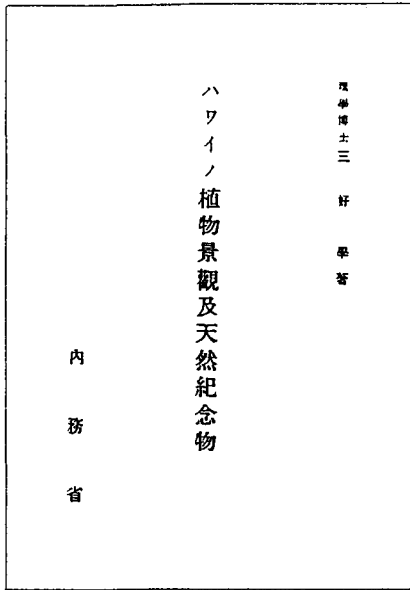


図7 「ハワイノ植物景觀及天然紀念物」
内務省（扉）

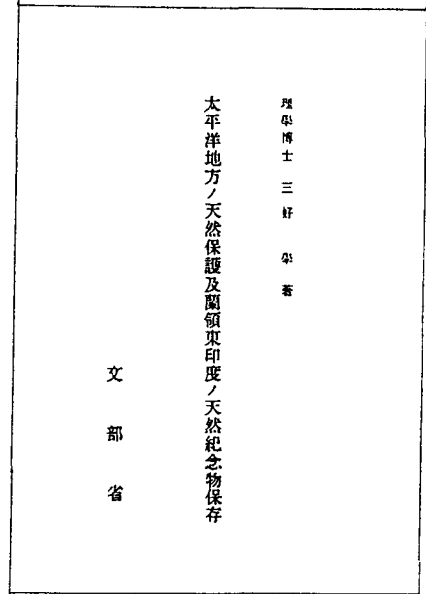


図8 「太平洋地方ノ天然保護及蘭領東
印度ノ天然紀念物保存」文部省（扉）

表紙、四六倍版

この報告にも「本編ハ去ル5月参列セル瓜哇ノ第4回太平洋学術会議ノ概況、同会議ニ於ケル太平洋地方ノ天然保護ノ問題并ニ今回視察セル蘭領東印度ノ天然紀念物保存ノ状況ニ就テ述ベタルモノナリ」と冒頭に述べてあり、肩書は文部省囑託となっている（史跡名勝天然紀念物関係行政の内務省より文部省への移管は、前報165頁に述べた）。内容は第4回太平洋会議に関してと表題の太平洋地方と旧オランダ領の東印度（現在のインドネシア）の天然紀念物保護に就いてであり、附録として「海峡植民地の天然保護」と「タンジョンブリオク附近テゲ砂浜の植物群落」に就いてのものが加えられている。この報告の中で、植物生態学者としての三好が最も注目したのは、1883年に大爆発を起こして島の三分の二が失われてしまったスダグ海峡のクラカタウ島の实地視察であった。爆発により一木一草

も無くなってしまったこの島への植物の再現に就いて、三好は自身のスケッチ3葉と写真7葉を交え、10頁余（22-33頁）の説明を載せている。

(d) 『天然紀念物』（図9）、昭和7年 岩波書店刊、目次1、序1頁、本文36頁（うち文献2頁）、写真図版2、紙表紙、菊版

これは岩波講座「生物学」の1編として書かれたもので、僅か36頁の小冊子ではあるが、三好の言うように、「…一般の見地から汎く天然紀念物保存の現状に就て其概要」を述べてあり、大正15年に出した『天然紀念物解説』の新版エッセンスと言うべきもので、参考文献に三好の1926年以降の英文論文10編近くが挙げられている。これらの文献も本資料の末尾の三好の「自著目録」に加えてある。

以上、三好の天然紀念物関係の著書などの紹介をして来たが、これらは何れも半世紀以

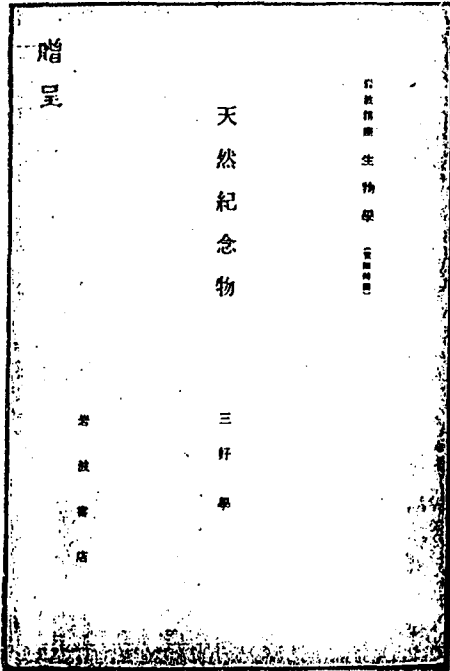


図9 「天然紀念物」岩波書店（表紙）

上も前の出版で、今日、一般には現物を手にすることが困難なものばかりである。その為、それぞれの扉や表紙のコピーを添えることにした。

2. 三好家関連の資料

三好関連のものとしては多くの資料があるが、ここでは美濃岩村藩に於ける三好家と、三好が十才代、二十才前後の若者であった石川県立第三師範學校在學中および岐阜県の土岐村立小學校校長時代に書き残したものに就いて述べる。

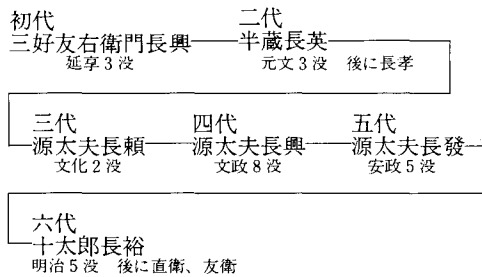
(1) 三好家に就いて 三好を知るには、三好の家系を知る必要がある。三好學の父三好友衛は明治5年、46才の若さで世を去っているが、旧藩時代は130石取りの侍で、藩主松平能登守乗命ノリトシの御側用人を勤め、江戸詰であっ

た。岩村藩の江戸藩邸の位置は前稿の通りである（上野（1972）202頁の記述をそのまま引用）。図10は昨年、永見氏から贈られた江戸の「大名小路の絵図」⁽⁸⁾（嘉永2年金鱗堂尾張屋清七版の復刻）の一部分で（上野もこの絵面に據っている）、ご覧の通り鍛冶橋御門から入り、大名小路へ右折、松平能登守の屋敷の左隣りが土岐山城守の、右隣りは本多美濃守、小路をへだてた向いは酒井飛禪守の屋敷である。

三好はこの江戸藩邸で文久元年(1861)12月5日に誕生し、明治維新の慶応3年、混乱する江戸から藩主の所領美濃岩村に移り住むことになる。

三好家系譜を開いて見ると、元祖は三好友右衛門長興で本国は阿州(阿波)、生国は備前で、天和元年に岩村の初代藩主松平乗紀に150石物頭として召抱えられている。系譜によると友右衛門の祖父に当る三好新兵衛は浮田秀家の家中で、5000石取りの大身だったと記されており、謂所、関ヶ原浪人である。三好の家紋は三蓋菱と十六葉菊で、現在は三蓋菱のみを用いている。三好の系譜に就いては岩村藩藩士歴世略譜⁽¹⁰⁾（上）にも載っている。

三好家の略系図を次に示す。



この友衛が三好の父である。友衛は嫁運に恵まれず、21才の若妻を嘉永7年に失くし、さらに万延元年に長男安太郎を2才で亡くす悲運に見舞われている。三好は父友衛と後妻

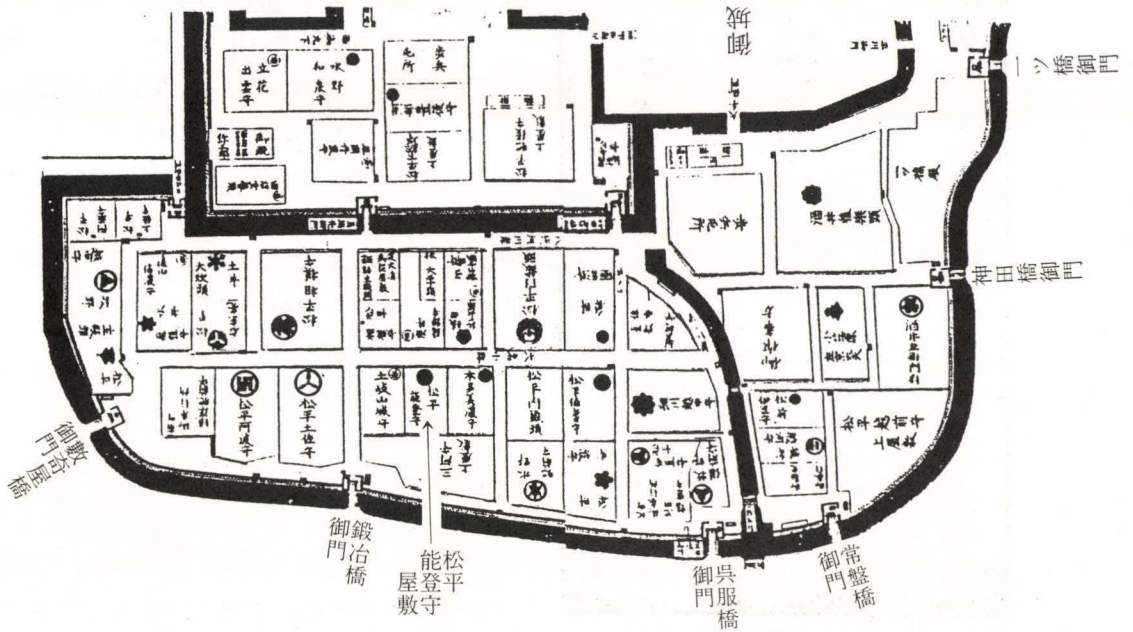


図10 「大名小路」絵図面 嘉永2年新版、慶応元年改正再版、東都麴町6丁目金鱗堂尾張屋清七版

である母とよ（中島家より嫁す）との間の最初の子で、友衛の次男になる。そして、慶応3年に三男源吉が、明治2年に四男直吉の二人の弟が生まれている。

東京都下の多磨墓地の一角に三好家の墓所（図11）があるが、そこには三好學、みつ夫妻の墓の他に、五代源太夫長發（學の祖父）までが葬られており、それ以前のは岩村町の妙法寺の墓地にある。學は昭和14年5月11日に亡くなっているが、妻みつとの間に一男八女がある。

前稿で三好友衛が江戸表と岩村の国家老のパイプ役をしたと記した（151頁左、上から9行～15行）が、岩村町の郷土史研究家樹神氏によると、その可能性は殆んど無いようなので、この記述は削除する。三好の祖先で史上に名の残るのは三代の源太夫長頼で、武勇に優れた人であったが、情にも厚い侍であった



図11 多磨墓地の三好家の墓（石田真理撮影）

事が、田中博士から頂だいた天領飛騨騒動の顛末を書き記した『夢物語』の「安永騒動」の項に載っている。

3. 師範学校および土岐小学校時代の資料

この時期の三好に関しては、そのあらましを前稿で述べた(151-5頁)。この頃の三好の文学への傾倒は驚く程で、後に自分で纏めている「竹雨楼詩集」も、少年期からの作詩が収められている。この詩集は半裁の美濃紙に自作の詩を書き連ね、半折して表紙を付けたものである。この詩の中には、当時の三好の旅行に就いてや思考の裏付けになるものを多く含んでいる。これらの詩は田子氏がすべて読下してあるので、含英集の分と併せて検討を進めている。

これから紹介する「含英集」は、三好の熱烈な文学志向を改めて知る新資料で、三好手製の「文章軌範」或は「文芸宝典」とも言うべきものである。「含英集」は現在、三好と縁りのある牧野植物園内の牧野文庫に収蔵されているが、幸い中内学長の仲介と同園のご好意で、その内容を知ることが出来た。これは13編から成り、三好の題言によると「此ノ書ハ古今ニ論ナク和漢ニ別ナク詩文和歌発句語類ヲ混雑シ以テ雅範ノ一嚆ニ供セントス…」と述べてあり、三好の意図したところが判かる。附図12はその表紙を集めたるもので、次の図13に第1編の題言の首部と、三好が「含英集」で用いている雅号を拾ってみた。この他に三好天外、蘇江学も見られた。この頃の三好の雅号「蘇江」に就いての考察をしているが、ここでは割愛する。上述の題言は「明治戊寅(11年)、夏目延年堂ノ東廂ニ於テ

蘇江漁史識ス」と結んであり、師範在学中のまだティーンエイジであった三好の手に成るものである。当時の三好の測り知れない知識欲と、その見事な筆蹟には敬服するばかりである。

次に「含英集」の各編の丁数、詩、文の別、自作の詩の有無とその数を示そう。

- 第1編 14丁(題言、凡例を含む) [詩・文]
明治戊寅(11年) 6月
- 第2編 20丁 [詩] 自作の詩24 明治11年
11月12日
- 第3,4編 40丁 [詩] 同46
- 第5編 20丁 [詩]
- 第6編 20丁 [詩] 同4 明治戊寅(11年)
- 第7編 11丁 [詩] 同9
- 第8編 12丁 [詩] 同7
- 同 27丁 [文] 明治8年11月
- 第9編 21丁 [詩]

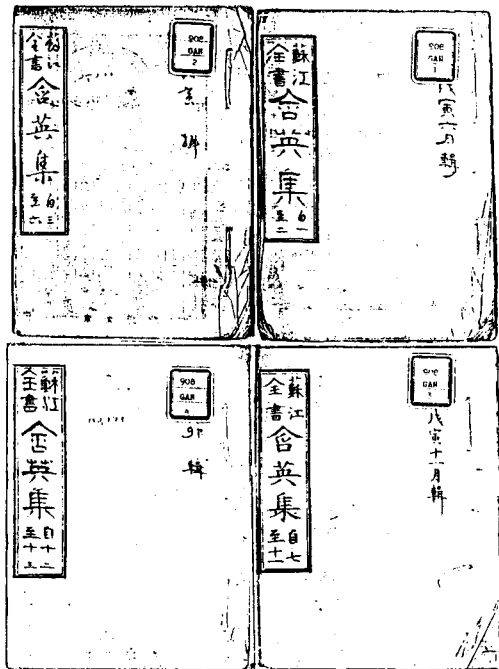


図12 三好學自筆の蘇江全書「含英集」の表紙第1輯～第13輯(明治11年)

(牧野植物園牧野文庫収蔵)



図13 「含英集」上右 詩・文第1編、題言、上左第11編詩、蘇江醉史、源學の号や名前が見える。下右より子明、蘇江閑漁、同漁史の号を示す。
(牧野植物園牧野文庫收藏)

- 第10編 8丁 [詩]
- 第11編 11丁 [詩] 同8 明治戊寅(11年) 11月
- 第12編 19丁 [詩] 同32
- 第13編 20丁 [詩] 同32 明治己卯(12年)

この内容で判るが、「含英集」の中には既に、130余篇に及ぶ自作の詩が収められている。この他に同時代の三好自作のもの2点が、牧野文庫に収蔵されている。その一つは和歌を集めたもので、「含英集」と同サイズ、13丁の冊子で、三好の和歌一首が収められており、裏表紙に「明治15年8月竹雨楼文庫三好」(図14)と書かれている。もう一つのは「柳花新誌」(図15)(同サイズ)、第21号、明治11

年10月2日発売、本文10丁に2丁の広告付きで、目次は社説、雑録：別品辨、詩7首、歌5首となっている。これにも三好の詩5篇と和歌3首が掲載され、末尾に社告があり、三条の社則が示され、假本局福井佐佳枝上町五柳社となっている。假編撰長は三好蘇江、即ち三好である。この本文に続いて「柳花新誌活版広告」という一文がある。それには本誌が、明治8年11月から福井師範の中で発行されて来たが、愛顧の諸君が増えたので、12年1月の初土曜刊行の第1号から活版刷りにすること、そして内容も5欄に改めることなどが書かれている。これを見ると「柳花新誌」は学校内の文芸同人誌で、三好が中心となっていた事が判る。この頃の三好は今で言う文学少年で、後年の三好の科学者と思えぬような流麗な文章の淵源はこの辺にある。以上述べたものに就いては、改めて詳しく取り扱うことにする。

さて、師範学校を卒業した三好は、明治12年3月、郷里の岩村にほど近い土岐小学校(現

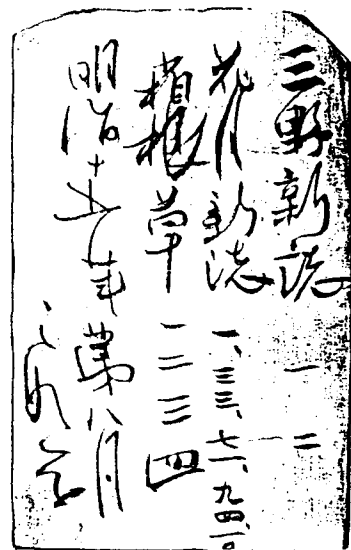


図14 歌集裏表紙(明治15年8月)
(牧野植物園牧野文庫收藏)



図15 柳花新誌 第21号表紙
(明治11年10月2日)
(牧野植物園牧野文庫収蔵)

在の瑞浪市立土岐小学校)へ赴任する。これに就いても前稿で記した(154頁)。岩村教育委員会から頂いた瑞浪市関係資料によると、この土岐小学校は明治6年5月に設立された光迪小学校が、同10年9月に改稱して土岐小学校になったものである。赴任当時の三好は岐阜県一級訓導補の身分であったが、8月には5級訓導に進んでいる。この頃の三好の写真が図16である。土岐小学校在職中に三好は、「土岐郡地誌略」(明治14年)、「小学修身読本」3巻(明治13~14年)、「生理小学」(明治13年)の小学教科書を著しているが、当時としてもたいそう珍しい事である。

今迄述べた4点の三好の自筆資料は、三好の文学志向を知る上で、はなはだ興味あるものであるが、この時期の最も重要なものは、伯母の故津田百合江(學の長女)から贈られた「授業日誌」(図17)(薄手美濃紙半裁を半折し、緒言によると三好が自身で洋風の装丁

をしたらしい)で、明治12年6月1日から13年12月25日までの日誌(第1号~第31号)を、上下2巻に分けたものである。上巻は1号から20号(700余丁)、明治13年5月5日まで、下巻の第21号から第30号までは、残念なことに失われている。

この「授業日誌」には、明治新政府によって始ったばかりの四民、男女平等の教育の場である小学校での、日々の授業の内容が克明に、しかも、丹念に記録されている。この意味で我国教育史上、極めて重要なものなので、近く岩村町教育委員会(筑波大学教育学系長谷川栄教授の解説付き)から復刻刊行される。

この日誌で、当時の三好の教師としての側面を知る手懸りとなるのは、明治12年12月24日の終業の説話と翌13年1月14日の「年始開校の演説」(図18)で、この時の若冠20才の校長三好の演説全文が、日誌に記録されている事である。

演説は「我輩ハ此ノ明治13年本日ノ開校ニ



図16 土岐小学校時代の三好 學(現瑞浪市立土岐小学校の歴代校長の肖像写真の中にあるもの、岩村町水野教育長提供)

<p>教育授業日誌第一号</p> <p>此冊子ハ余ノ擔當教場ノ授業ノ日誌ニシテ 第一号 自十二年六月一日至州日 第二号 自全 八月一日至十八日 第三号 自全 八月十九日至九月十二日 第四号 自全 九月十三日至十月三日 第五号 自全 十月四日至二十三日 第六号 自全 十一月十一日至十二月二日 第七号 自全 十二月三日至十二日 第八号 自全 十二月十三日至二十日 第九号 自全 十二月二十一日至二十四日 第十号 自全 十二月二十五日至三十一日 第十一号 自十三年一月十四日至二十二日 第十二号 自十三年一月二十六日至三十一日 第十三号 自全 二月(日)至十四日 第十四号 自全 二月十五日 至三月三日 第十五号 自全 三月四日 至十三日 第十六号 自全 三月十四日 至二十五日 第十七号 自全 三月二十六日 至四月三日 第十八号 自全 四月七 至十五日 第十九号 自全 四月十六日 至二十七日 第二十号 自全 四月二十八日 至五月五日 第二十一号 自全 五月六日 至二十三日 第二十二号 自全 五月二十四日 至六月六日 第二十三号 自全 六月七 至十七日</p>									
<p>明治十四年第一号(一)以上十縣美濃國 土岐郡土岐村公立土岐小学校ニ於テ 五年制第三好學級</p>									
<p>此冊子ハ余ノ擔當教場ノ授業ノ日誌ニシテ 第一号 自十二年六月一日至州日 第二号 自全 八月一日至十八日 第三号 自全 八月十九日至九月十二日 第四号 自全 九月十三日至十月三日 第五号 自全 十月四日至二十三日 第六号 自全 十一月十一日至十二月二日 第七号 自全 十二月三日至十二日 第八号 自全 十二月十三日至二十日 第九号 自全 十二月二十一日至二十四日 第十号 自全 十二月二十五日至三十一日 第十一号 自十三年一月十四日至二十二日 第十二号 自十三年一月二十六日至三十一日 第十三号 自全 二月(日)至十四日 第十四号 自全 二月十五日 至三月三日 第十五号 自全 三月四日 至十三日 第十六号 自全 三月十四日 至二十五日 第十七号 自全 三月二十六日 至四月三日 第十八号 自全 四月七 至十五日 第十九号 自全 四月十六日 至二十七日 第二十号 自全 四月二十八日 至五月五日 第二十一号 自全 五月六日 至二十三日 第二十二号 自全 五月二十四日 至六月六日 第二十三号 自全 六月七 至十七日</p>									
<p>附録</p> <p>第二十四号 自全 六月十八日至七月八日 第二十五号 自全 七月九日至十八日 第二十六号 自全 七月十九日至二十五日 第二十七号 自全 七月廿六日至八月十三日 第二十八号 自全 八月十四日至九月二十九日 第二十九号 自全 九月三十日至十月三十一日 第三十号 自全 十月三十一日至十一月四日 第三十一号 自全 十一月五日至二十五日</p>									

図17 三好學の土岐小学校時代の「授業日誌」緒言と目次
 (明治12年6月1日~13年12月25日)

教員採書日誌第十一号	三好 學 編	明治十三年一月十四日水曜日	開校始業式	午膳三時登壇	生徒出席	監事主席ノ長出席	校長臨場	演説	年始開校ノ演説	我輩此ノ明治十三年春日ノ開校ニ會シ	我國文運ノ隆盛ヲ祝シ而テ一言以テ諸君	ニ語ルトコロアラントス	見ヨ見ヨ諸君ヲ何チ東方ヲ見リ重慶海ヲ	出テ、梅柳江ヲ復シ朝暎正ニ上ラテ光明	宇内ヲ照ラシ仁風ヲ源テ千門旅幸ヲ凱	ヘス至仁至徳ナレ 皇帝陛下ノ皇城ノ内	在マシ方椽整正國方富強人文大ニ開ケ	教育ノ隆盛、行ハレ度ク宇内ト肩ヲ競フ	ルノ時勢一步メ大明ノ域ニ進ミ再歩シテ	開化ノ境ニ越リ三歩シテ獨立自治ノ基ヲ	ハシメントス誰レカ大明ヲ惡ク開化ヲ嫌	フモノアラシ誰レカ獨立ヲ忌ムゾ自依リ	遠クルモノアラシ誰レカ我回ハコ
------------	--------	---------------	-------	--------	------	----------	------	----	---------	-------------------	--------------------	-------------	--------------------	--------------------	-------------------	--------------------	-------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	-----------------

ナル所ノ者ナリ冀クハ諸君ヲ我輩ガ此ノ	開校始業ノ際、於テ今此ノ主旨ヲ語ラシ	シテ熱望シ改メテ日帝國ヲトス一	介子ナレバ後ヲ知識ヲ開登シ學科ヲ研究	レテ文明即チ砂糖ノ分子トナレバ且此	ノ學校ナルモノハ我等ノ知識ヲ開發シテ	有用ノ人トナリ我國文明ノ分子トナシ恩	賜ソレヲ信リテ奮勵シ益勉メ止猶奮發シ	テ實用ヲナレ我ガ天皇陛下恩徳ノ方ハ	報ニ我國ノ民タルノ努メテ皆カダラシ	ク脚ヲ並ニ此ノ意ヲ演ベント欲シ只長ニ	演説スルヲ如此	北九二千五百四十年明治十三年一月十	四日	土岐學校長 三 好 學	右條リテ生徒祝文朗讀	新年開校ノ祝詞	古語、曰ク先陣者如知馬ト置、然リ地球	ニ、大儀ヲ一放シ度辰ノ敵トナレリ四海	寂靜ナレシテ万條鳴ラズ茲、春日開業ノ	式ヲ行フ我輩亦此ノ序案ニ列スルヲ得	タリ休テ笑シ、志基各校ノ隆盛ノ報貢	除テカラシニテ我輩亦何シテ越知重交	ニガレベケンヤ
--------------------	--------------------	-----------------	--------------------	-------------------	--------------------	--------------------	--------------------	-------------------	-------------------	--------------------	---------	-------------------	----	-------------	------------	---------	--------------------	--------------------	--------------------	-------------------	-------------------	-------------------	---------

図18 三好學の年始開校の演説（明治13年1月14日）

上 演説草稿の最初の部分
下 同最後の部分、この間に見開き4枚に亘る草稿がある

会シ我国文運、隆盛ヲ祝シ而テ一言以テ諸君ニ語ルトコロアラントス…」で始まり、塩分と糖分の比喩を交えた処世訓を2000字余に及んで述べ、「紀元二千五百四十年……土岐小学校校長三好學」で終了している。

前述の4点も、この日誌もそうであるが、三好の書き残したものは殆んどが見事な楷書で、如何にも三好の几帳面さが表われている。

図19に示したのは最近、岩村で見附かった三好の書で、明治18年の揮毫であるから、三好24才、東京大学予備門在学中で、書かれている事も実学を重んじた三好らしいものである。

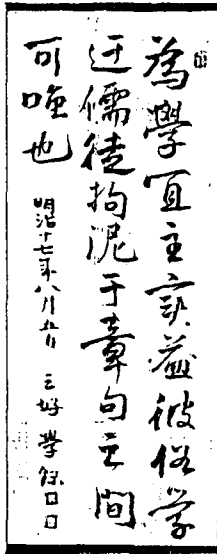


図19 三好 學の書 (明治17年 8月5日)
岩村町教育委員会蔵 (軸装絹本、39.2×15.3cm)

為^スレ^ハ學^ヲ宜^シク
主^トス^ルニ
實^ニ益^ヲ
彼^ノ俗^学
迂^ニ儒^ト徒^ニ
拘^リ泥^リ
于^テ章^句
之^間
可^ク嗤^フ
也

の為の資料蒐集を、お手伝い頂いた本学図書館の甘利麗子主任司書に厚くお礼申し上げる。

文献・資料

- (1) 安藤裕・酒井敏雄 1992 (平, 4) 日本に近代植物学を興した三好學小伝、清泉女学院短期大学研究紀要、第10号、149~174
- (2) 渡辺清彦 1941 (昭, 16) 三好學、堀川豊栄編纂『近代日本の科学者』第1巻 221~247 (肖像写真1葉) 人文閣
- (3) 上野益三 1972 (昭, 47) 三好學の植物学への道、採集と飼育、第34巻第9号 202~205, 第10号 238~239
- (4) 同 1939 (昭, 16) 『日本生物学の歴史』弘文堂
- (5) 安藤裕 1982 (昭, 57) 桜博士 三好學先生採集と飼育、第44巻第10号 488~491 (写真6葉)
- (6) 同 1988 (昭, 63) 三好學 監修木原均、篠遠喜人、磯野直秀 『近代日本生物学者小伝』、154~157 (肖像写真1葉) 平河出版
- (7) 文化庁文化財保護部監修 1975 (昭, 50) 『天然記念物事典』第一法規
- (8) 金鱗堂尾張屋清七版 1865 『大名小路絵図』嘉永2年新版、慶応元年改正再版 (復刻)
- (9) 三好家系譜 三好新所蔵
- (10) 岩村町歴史資料館 1991 (平・3) 『岩村藩藩士歴世略譜』上巻
- (11) 渡辺政定 1968 (昭, 49) 『夢物語』一飛州大原騒動回想録一 続飛驒叢書1、斐太中央印刷株式会社

あとがき

本編は三好の著書或いは三好自筆の資料のみに據って纏めたものである。断片的な記述となったが、資料なので已を得ない。まだまだ多くの資料があるが、それらに就いては次の機会に譲る事とする。

前稿の誤記、校正ミスなどに就いては、いづれ訂正したい。最後になったが本編の作成

三好 學の天然記念物関係著書・論説・調査報告等目録

〔「植雑」は植物学雑誌, 「東洋学芸」は東洋学芸雑誌, 「史蹟天然」は史蹟名勝天然記念物, 「」は著書〕

1. 一般天然記念物名勝に関するもの

明治23年	Pinguicula ramosa, sp. nov. ニ就テ 植雑 (4) 43:316-
29年	硫黄バクテリアの話 東洋学芸 (13) 183:575-
30年	日本鉱泉ノ生態学的研究略報 植雑 (11) 126:285-290
38年～ 大正3年	「日本植物景觀」第1集より第15集まで
39年	名木ノ伐滅竝ニ其保存ノ必要 東洋学芸 (23) 301:429-438
40年	同 植雑 (21) 241:36-43
"	天然記念物保存ノ必要竝ニ其保存策ニ就テ 太陽 (13) 1:169-175,2:169-182
"	同「植物学叢話」
"	自然物の保存及保護 日本及日本人 452:19-22
40,42年	「日本高山植物圖譜」(三好學、牧野富太郎共撰) 卷之一, 卷之二
43年	名木の保存「日本之植物界」584頁
"	国粹植物としての桜 学生 (1) 8
44年	日本ノ天然記念物ノ保存ニ就テ 植雑 (25)290:75-84
"	日本に於ける天然記念物保存思想の發達 東洋学芸 (28) 357:253-259
"	記念植物の保存「最新植物学講義」(下卷) 1171頁
"	天然記念物の保存
45年	ひかりごけノ培養 植雑 (26) 309:275-277
"	天然記念物保存事業の發達 太陽 (18) 5:89-108
"	天然記念物保護に就て (講演要旨) 京都教育 241
大正元年	天然記念物保護に就て 京都府及地方改良講演集
3年	天然記念物保存事業 欧米植物觀察275頁～
"	欧米各国に於ける天然記念物保存事業視察談 史蹟天然 (1) 1:3-4,2:11-12
"	天然保護區域に就て 史蹟名勝天然記念物保存協会第2回報告
"	欧米ノ天然記念物保護ト天然保護區域ニ就テ 植雑 (28) 335:464-471
"	欧米各国に於ける天然記念物の保存 東洋学芸 (31) 394:297-303,395:248-257
"	日本に於ける光水の發見と其保存 植雑 (29) 340
"	外国に於ける天然記念物保存事業の近況 理学界 (10) 7,8
"	メンデルと其遺跡「欧米植物觀察」330頁
3,4年	天然物を愛せよ 学友 (2) 12,(3) 1
4年	「天然記念物」
"	天然記念物の保存と美化 東京日々新聞 大阪毎日新聞 (2月21～24日)
"	天然記念物保存ノ精神 新日本 (5) 4
"	日本ニ於ケル光藻ノ發見ニ就テ 植雑 (29) 340:122-125
"	天然記念物保存の精神 新日本 (5) 4:105-110
5年	天然記念物について 讀本教材解説 国語教育 (1) 2:21-24
"	天然記念物の保存と我が青島の景觀 (講演筆記) 日州教育会雑誌 (170)
"	天然記念物の保存に就て 史蹟天然 (1) 12:91-92
"	天然記念物保存雜記 史蹟天然 (1) 14:110-111, 15:
6年	天然記念物保存雜記続 史蹟天然 (1) 15:117-120

- 大正6年 郷土事業としての天然記念物保存 史蹟名勝天然記念物保存協会第5回報告
 " 博物学会と天然記念物の調査 理学会 (12)
 " 日本の天然記念物と其の保存 教育書報 (3) 8
 " 普通教育と天然記念物保存 教育時論 1119
 " 太東岬の一日 東洋学芸 (34) 430
 7年 日本記念植物の保存に就て 史蹟天然 (2) 11:81-83
 " 日光の植物界 博愛 (374), (375)
 " 天然記念物と其保存「人生植物学」549頁
 8年 櫻草原野の保存の必要 東洋学芸 (36) 455:452-457
 " 植物の利用と保存 史蹟天然 (3) 4:25-27
 " 史蹟名勝天然記念物保存法の発布に就て 史蹟天然 (3) 7:49-50
 " 芭蕉の句塚と名勝地の記念 史蹟天然 (3) 10:76-80
 9年 天然記念物保存が学問上に及ぼす効果に就て 東洋学芸 (37) 470:494-502
 " 国家事業と成れる天然記念物保存 理学会 (18) 4, 5
 " 岩村田の光蕨 中学世界 大正9年12月號
 10年 記念植物の保存「最新植物学講義」(下巻)516頁
 " 岩手県下旅行雑記 史蹟天然 (4) 7:75-76
 " 天然記念物保存要目 植物之部 内務省
 " 巨樹の太さの測り方竝に保存に就て 史蹟天然 (4) 10:115-116
 " 天然記念物の話 科学知識 (1)
 " 「花菖蒲園譜」4冊 解説1冊
 11年 犬山城と村瀬太乙 史蹟天然 (5) 2:14-15
 " 天然記念物としての原始林 史蹟天然 (5) 12
 " 史蹟名勝天然記念物保存に就て (講演筆記) 三重教育 296:1-1
 " 樹木の枝垂に就て 理学会 (20) 6
 " 花菖蒲の変性 学芸 (39) 489
 " 紅葉 科学知識 (2) 11
 12年 櫻草 科学知識 (3) 4
 " 本邦中部に於ける「ひとつばたご」自生地の発見 史蹟天然 (6) 1:1-2
 " 十和田湖の植物景觀 学芸 (40) 502
 13年 天然記念物の損害 大正大震災誌 改造社 134-139
 14年 植物に関する天然記念物 地学雑誌 (37) 431
 " 松の話 科学知識 (5) 1
 " 植物分布の限界に就て 理学会 (23) 1
 " 天然記念物保存に就て 理科教育 (8) 1
 " 植物学上より観たる天然記念物保存 東洋学芸 (41) 505 45-56, 506:145-162
 15年 天然記念物保存と自然科学 史蹟天然 1集 1号
 " 天然記念物の保存と故徳川侯爵 史蹟天然 1集 1号
 " 松岡恕庵と品種の研究 東洋学芸 (42) 514:22-23
 昭和2年 ハワイノ植物景觀及天然記念物 内務省
 4年 太平洋地方ノ天然保護及蘭領東印度ノ天然記念物保存 文部省
 6年 最新植物学(下巻)第5章

〔談話・講演要旨〕

- 明治42年 国粹植物としての松 東京日々新聞
 43年 名木の保存(1月23日) 読売新聞

- 明治43年 吉野の桜東京の桜（4月29日） 中央新聞
 " 天然記念物（11月28日） 時事新報
 44年 日本記念植物の保存に就て（講演要旨） 南葵文庫報告 3
 " 桜は天然の記念物 新東京（6） 56
 " 並木と天然記念物に就て 日の出公論（1） 3
 " 都市美観の問題 新日本（2） 4
 " 国華としての山桜 日本及日本人 555
 " 日本天然記念物の保存（2月11日） 毎日電報
 " 日本一の名花（3月16,17日） 時事新報
 " 桜の種類及名所（4月2日） やまと新聞
 45年 天然記念物の保存（講演要旨，5月13日） 北海タイムス
 " 同（講演要旨，6月11,12日） 大阪毎日新聞
 大正2年 世界の珍植物「光蕨」を発見す 時事新報

〔欧文のもの〕

- 1890 Notes on *Pinguicula remosa*, sp. nov. Botan. Magaz. Tokyo. Vol. IV. No.43 : 315-
 1897 Ueber das massenhafte Vorkommen von Eisenbakterien in den Thermen von Ikao.
 Jour. Coll. Sci. Imp. Univ. Tokyo. Vol. X. Pt. II.
 " Studien über die Schwefelrasenbildung und die Schwefelbakterien der Thermen von
 Yumoto bei Nikko. Jour. Coll. Sci. Imp. Univ. Tokyo. Vol. x. pt. II
 1899 Botanische Mitteilungen ans Nikko. I. Botan. Magaz. Tokyo. Vol. XIII. No153 : 123
 -
 1910 Ueber das Vorkommen gefüllter Blüten bei einem wildwachsenden japanischen
 Rhododendorn, nebst Angabe über die Variabilität von *Menziesia multiflora*,
 Maxim. Jonr. Coll. Sei. Imp. Univ. Tokyo. vol. XXVII. Art. II.
 1912 Ueber die Kultur de *Schistostega osmundacea* Schimp. Botan. Magaz. Tokyo. Vol.
 XXVI. No. 310 : 304-
 " Ueber *Deutzia crenate* Th. var. plena Max. Botan. Magaz. Tokyo. Vol. XXVI. No.
 312 : 347-
 1914 Ueber die Naturschutzgebiete in Japan (Vortrag). Beitr. z. Naturkndmalpflege. Vol.
 IV
 " Ueber die Naturschutzgebiete in Japan. Die Naturwissenschaften, Berlin
 1915 Ueber die das Leuchtwasser und dessen Schutz in Japan. Botan. Magaz. Tokyo. Vol.
 XXIX. No 341 : 51-53.
 1919 Ueber die Erhaltung einer neuen, wildwachsenden, hängenden, Varietät des Kas-
 tanienbautmes als Naturdenkmal. Botan. Magaz. Tokyo. Vol. XXXIII. No 393 : 185
 -188
 1920 Weitere Mitteilungen über die Hängekastanie. Botan. Magaz. Tokyo. Vol. XXIV.
 No. 408 : 185-186
 " Preservation of Historic Sites, Beauty Spots and Natural Monuments in Japan. The
 Asian Review, Vol. I, No. 8, p.851.
 1925 Bericht über die neuerdings gesetzlich geschützten botanischen Naturdenkmäler.
 Botan. Magaz. Tokyo. Vol. XXIX. No. 465 : 22-32
 1926 Die Naturdenkmalpflege in Japan. Nachrichtenblatt für Naturdenkmalpflege. III. 4.
 " Preservation of natural monuments in Japan. Department of Home Affairs. Tokyo

- 1926 Die Naturdenkmalpflege in Japan. Nachrichtenblatt für Naturdenkmalpflege, herausgegeben in der Staatlichen Stelle für Naturdenkmalpflege in Preussen, 3, Nr. 4
 " Preservation of botanical natural monuments in Japan. Proc. III. Pan-Pacific Science Congress, Tokyo, p.1112
- 1927 The work of preserving natural monuments in Japan. Department of Home Affairs
 " The preservation of natural monuments in Japan. Jou. Heredity. Washington D. C, 18, 1. p.33-
 " Notes on some rare or remarkable plants. Proc. Imp. Acad. Tokyo, 3, 4
 " Bericht über die neuerdings gesetzlich geschützten botanischen Naturdenkmäler. Bota. Maga. Tokyo, 39, 465
- 1929 Protection of nature, especially of botanical natural monuments in Japan. Proc. IV. Pacific Science Congress, Java. Reprint.
- 1931 Merkwürdige Ginkgo biloba in Japan. Mitt. deutsch. dendrol. Ges. 34. p.21
- 1933 Preservation of Botanical Natural Monuments. Preservation of Natural Monuments in Japan II. Department of Education, p.5
- 1934 Über einige merkwürdige Pflanzen. Proc. Imp. Acad. X, p.424
 " Über die submerse Moosvegetation im Inawashiro-See. Proc. Imp. Acad. X, p.675
- 1935 Heteropetalie bei einer Bergkirsche. Proc. Imp. Acad. XI, No. 8

2. 桜の研究ならびに保存に関するもの

〔概 説〕

- 大正7年 桜 桜 1
 " 国華 東洋学芸 35(439):214-217
 " 桜花の種類と其来歴 日本魂 (3) 4
- 8年 江戸時代以来の桜 桜 2
- 9年 科学上より見たる桜 桜 3
 " 昔の桜と今の桜 (講演要旨) 南癸文庫報告
- 10年 昔の桜と今の桜 桜 4
- 11年 桜の話 桜 5
- 12年 桜花の讚美と其保存 (講演筆記) 岐阜県教育 344
 " 美しい桜 教育新聞 (岐阜) 238
- 14年 桜 春之科学
 " 桜に関して戸川翁を想う 桜 7
- 15年 桜の話 国際写真情報 (5) 3
 " 桜に関して徳川頼倫侯を憶う 桜 8

〔品 種〕

- 大正5年 優れたる桜の品種 史蹟天然 (1) 10
- 6年 公園庭園等に種植すべき桜樹の品種に就て 史蹟天然 (1) 17
- 8年 山桜と里桜 理科教育 (2) 4
- 11年 美しい桜 科学知識 (2) 4
- 12年 珍しい桜 学芸 (40) 499
 " 名桜の保存に就て 桜 6
- 13年 石戸の蒲桜 武蔵野 (7) 3
- 14年 桜品記載 桜 7

- 〃 同 二 桜 8
15年 桜の種類と其植場所 史蹟天然 (1) 4

〔名所の桜〕

- 大正 4年 吉野の桜と其保存 小学校 (19) 1
7年 名所の桜と其来歴 農業雑誌 1195
8年 霞間ヶ谷の桜 史蹟天然 (3) 2
11年 美しき桜と其来歴 吉野の桜と其保存 桜花講演集 奈良県教育会
12年 桜の名所と其保存 史蹟天然 (6) 4
14年 桜の名所 桜 (7)
15年 桜の名所と其保存 日本魂 (11) 4

〔桜の圖書〕

- 大正 8年 桜花圖考 桜 2 : 57-
〃 市橋長昭撰花譜の解題竝に其文献的価値 東洋学芸 (36) 451 : 202, 452 : 267
10年 桜花圖譜 2冊
〃 桜花概説
〃 桜品と桜畫 史蹟天然 (5) 4
15年 三熊花顛畫桜花帖考竝に其解題 桜 (8)

〔桜に関する書目〕

- 大正 9年 桜に関する圖書解題略
10年 補補桜に関する圖書解題略
11年 同 追加 1 1-7 桜 5 附録
12年 同 追加 2 1-20 同 6 同
14年 同 追加 3 1-24 同 7 同
15年 同 追加 4 1-16 同 8 同
昭和 2年 同 追加 5 1-14 同 9 同
3年 同 追加 6 1-11 同 10 同
4年 同 追加 7 1-10 同 11 同
5年 同 追加 8 1-3 同 12 同
6年 同 追加 9 1-4 同 13 同
7年 同 追加 10 1-3 同 14 同
8年 同 追加 11 1-11 同 15 同
9年 同 追加 12 1-11 同 16 同
10年 同 追加 13 4-18 史蹟天然 (11) 1,2
〃 桜の文献に就て 1-3 桜

〔欧文のもの〕

- 1916 Die japanischen Bergkirschen, ihre Wildformen und Kulturrassen. Jour. Coll. Sci. Imp. Univ. Tokyo. Vol. XXX IV. Art 1.
〃 Der Riesenkirschbaum von Ishido. Botan. Magaz. Tokyo. Vol. XXX. No. 358
1922 Untersuchungen über japanische Kirschen I, II. Botan. Magaz. Tokyo. Vol. XXX IV. No 421
1926 On fragrant Chrries. "Sakura." No. 8
1933 Über die Assoziation einer violettblüehenden Iris. Proc. Imp. Acad. IX, p.410.

1934	Über die Variabilität der Hanashobu (Iris ensata Thunb.) im wilden Zustande. Proc. Imp. Acad. X, p.672.
------	---

3. 植物採集紀行

明治20年	採植物於駒岳記 植雑 (1) 1:16-20
21年	伊勢紀伊植物採集紀行 同 (1) 10:190-205,11:
"	富士山植物採集ノ形況 同 (2) 20:192-199
23年	信州御獄ニテ地衣植物採集ノ記 同 (4) 38:135-140
"	信州両毛植物採集旅行雑記 同 (4) 43:435-327,44:371-374
24年	日光山中ノ地衣植物 同 (5) 48:48-50
"	秩父諸峯及ビ筑波山植物採集略記 同 (5) 51:153-156
"	秩父及ビ筑波山最終植物目録 同 (5) 51:156-158

4. 調査報告 (内務省刊行)

大正8年	天然記念物調査報告2 長野・岐阜・千葉三県下天然記念物
9年	天然記念物調査報告9 長崎・大分・鹿児島三県下ノ植物ニ関スルモノ
"	天然記念物調査報告12 桜草ノ自生地ニ関スルモノ
"	天然記念物調査報告13 東京府下及長野・岐阜二県下ノ植物ニ関スルモノ
"	天然記念物調査報告14 岐阜・滋賀・三重三県下ノ植物ニ関スルモノ
"	天然記念物調査報告19 北海道ノ植物ニ関スルモノ
10年	天然記念物調査報告25 愛知・福岡両県下ノ植物ニ関スルモノ
"	天然記念物調査報告28 鹿児島・大分・岩手三県ニ於ケル植物ニ関スルモノ
"	天然記念物調査報告30 三重・滋賀・茨城・新潟・青森五県下ノ植物ニ関スルモノ
11年	天然記念物調査報告32 滋賀・大分・山口三県下ノ植物ニ関スルモノ
"	天然記念物調査報告34 和歌山・香川・広島・埼玉・福島・静岡・山梨・宮城・秋田・岐阜・奈良十一県下ノ植物ニ関スルモノ
13年	天然記念物及名勝調査報告35 東京・京都・大阪三府及山形県以外二十県下ノ天然記念物ニ関スルモノ 桜・花菖蒲・牡丹竝ニ松原ノ名勝ニ関スルモノ